社会と調和した情報基盤技術の構築
平成 28 年度採択研究者

H30 年度
実績報告書

仲谷　正史

慶應義塾大学環境情報学部　准教授

安心感の醸成と孤独感の低減をめざす Emotional Reality 情報技術の確立

§1. 研究成果の概要

本研究は日常生活において主観的に体験される孤独感を低減し、安心をして過ごしてゆくための情報技術を開発することが主たる目的である。この目標のために、2018 年度は乳幼児の行動を取り組む研究課題に選定し、3つの研究成果を上げた。1つ目は、触れることの意識調査を行い、養育者が子にふれる場合と子が養育者に触れる場合で、養育者が解釈するふれることの意味が異なることを明らかにした。2つ目に、感覚運動期の乳幼児が示す視触覚探索行動を自動定量化するスキームを開発した。この手法を利用することで、子どもが示す興味傾向や発達段階を推定することを可能にした。3つ目に、保育で使用される絵本を題材に、多感覚に訴えかける言葉[オノマトペ]分布の年齢差を明らかにした。幼児の発話能力の発達段階と比較することで、何気なく使用されているオノマトペが規定する外界世界に対する理解の仕方を考察した。これら3つの知見を統合して、乳幼児が発達してゆく過程を定量化するだけでなく、養育者が乳幼児に関わる方法について養育者自身に気づきをもたらして、主体的に養育者が乳幼児に安心感を与える関わり方を考案する契機をもたらす情報技術システムの開発につなげてゆく。

図 2018 年度に実施した乳幼児の探索行動研究成果の概要

§2. 研究実施体制

①研究者:仲谷　正史 （慶應義塾大学環境情報学部　准教授）

②研究項目

・日本科学未来館における実験「ともにつくるサイセンタン」の実施

・感情／情動表現が提示可能な情報伝達システムの開発

・乳幼児を対象にしたフィールドワーク実践

・高齢者への共想法ワークショップ中の生理計測システムの設計・開発

以上